
避難対策ワークショップ運営の手引き (概要版)

-あらゆる自然災害から命を守るために-

平成 29 年 3 月

和歌山県

はじめに

■大規模災害から命を守るためには、行政の取組だけではなく、住民一人ひとりがどのように避難すべきか、避難行動要支援者の避難支援をどのように行うかなど、避難について考え、行動することが大切です。

■そのためには、地域住民が主体となり、避難について学習するとともに、ワークショップ（様々な意見を自由に出し合い、お互いの考えを尊重しながら、意見や提案をまとめあげていく）の手法を用いて、「一人ひとりの避難計画」や「地域の避難計画」の作成を進めていくことが効果的です。

■この度、地域で避難計画を作成していくためのワークショップ（以下、「避難対策ワークショップ」という。）の実施を支援するため、「避難対策ワークショップ運営の手引き」を策定しました。

■あらゆる災害に対し、避難経路や避難場所を考えて、命を守る一層適切な避難を考えることができるよう、「水害編」、「土砂災害編」、「地震・津波編」の3編に分けています。

■手引きは、住民による地域単位での避難対策ワークショップの運営を支援するため、災害の基礎知識や避難の考え方、地域による避難行動要支援者の避難支援のあり方及び具体的なワークショップの進め方などを記載しています。

■策定にあたっては、有識者や防災関係機関による内容検討を行うとともに、実践的な内容となるよう、串本町古田地区（水害）、九度山町九度山東地区（土砂災害）、美浜町浜ノ瀬地区（地震・津波）をモデル地区として、住民の皆様と避難対策ワークショップを実施しました。

■市町村では、この手引きを活用して、自主防災組織や職場、団体などが自主的にワークショップを開催できるよう、ワークショップの開催・運営の中心となる運営者の養成を進めていただきたい。

■ワークショップが各地で開催され、災害時の「一人ひとりの避難計画」の作成や避難行動要支援者の避難支援などを含めた「地域の避難計画」の作成や避難訓練などを通じて、地域の防災力が向上し、命を守る避難対策がさらに進むことを期待しています。

手引き策定の経緯

- 手引きの策定にあたっては、水害、土砂災害、地震・津波の学識経験者や国、和歌山県、町の防災関係担当者で構成される「避難対策ワークショップ運営の手引きの検討会」を設置し、検討を行うとともに、災害種別ごとにモデル地区での避難対策ワークショップを開催し、手引きの内容を検証しました。

● 検討会、地区別検討会の開催実績

	開催年月日	内容
第1回検討会	平成28年8月1日	・ワークショップ運営の手引き素案の検討 ・ワークショップ講義資料案の検討 等
地区別検討会 (美浜町)	平成28年8月21日 平成28年8月28日	・避難対策ワークショップ（地震・津波）開催
地区別検討会 (串本町)	平成28年9月18日 平成28年10月2日	・避難対策ワークショップ（水害）開催

	開催年月日	内 容
地区別検討会 (九度山町)	平成 28 年 9 月 24 日 平成 28 年 10 月 29 日	・避難対策ワークショップ(土砂災害)開催
第 2 回検討会	平成 28 年 11 月 22 日	・地区別検討会の開催実績の報告 ・ワークショップ運営の手引き案の検討 等

●検討会委員一覧

学 識 経 験 者	京都大学防災研究所 副所長・教授 中北 英一(水害)
	京都大学防災研究所 教授 藤田 正治(土砂災害)
	人と防災未来センター 研究主幹 宇田川 真之(地震・津波)
国	国土交通省近畿地方整備局和歌山河川国道事務所 調査第一課長
	国土交通省近畿地方整備局和歌山河川国道事務所 防災課長
	国土交通省近畿地方整備局紀南河川国道事務所 調査第一課長
	和歌山地方気象台 防災管理官
町	九度山町地域防災課長
	美浜町防災企画課長
	串本町総務課長
和 歌 山 県	総務部危機管理局防災企画課長
	総務部危機管理局災害対策課長
	福祉保健部福祉保健政策局福祉保健総務課長
	県土整備部河川・下水道局 河川課長
	県土整備部河川・下水道局 砂防課長
	県土整備部港湾空港局 港湾漁港整備課長
	伊都振興局地域振興部長
	伊都振興局建設部長
	日高振興局地域振興部長
	日高振興局建設部長
	東牟婁振興局地域振興部長
	東牟婁振興局串本建設部長

※役職名は平成 29 年 2 月現在

1. 「避難対策ワークショップ」の運営方法

ステップ0 ワークショップの準備、案内（P4）

- ✓ワークショップを行う災害の種類、範囲を決めます。
- ✓運営スタッフを集め、ワークショップの開催案内、準備をします。

ステップ1 避難対策ワークショップの説明（P4）

- ✓ワークショップの全体的なスケジュールや内容、意義等について説明します。

ステップ2 避難に必要な情報と避難の基本的な考え方の習得（P5）

- ✓災害発生のメカニズム、地域の避難場所や避難所の確認方法、避難の際に活用する情報とその取得方法などを説明します。
- ✓専門的な知識が必要になるため、外部講師や市町村防災担当課に協力を依頼することも考えられます。

ステップ3 地域における危険性の確認（P6）

- ✓地域の災害リスクや災害の起こりそうな箇所などをハザードマップ等で確認します。
- ✓グループワークで話し合い、自宅の場所、避難場所、避難経路、地域の危険性などを地図上に記載し、マイマップのベース地図を作成します。
- ✓必要に応じて、まち歩きを実施して、避難途中の危険箇所などを確認します。

ステップ4 一人ひとりの避難計画の作成（P7）

- ✓避難するタイミング、避難場所、事前に地域や個人で取り組むことなどをグループワークで話し合い、避難のタイミング表へ記載します。
- ✓作成したマイマップのベース地図や、避難のタイミング表を参考に、一人ひとりの避難計画として、「マイマップ」や「避難カード」を作成します。

ステップ5 地域の避難計画の作成（P8）

- ✓地域としてどのように避難を行うのかを検討するため、地域の危険箇所や避難経路などを記載する「地域の防災マップ」を作成します。また、避難行動要支援者の避難支援の体制を検討するため、「避難行動要支援者の避難支援マップ」を作成します。
- ✓自主防災組織が、平常時にどのような取組を行うか、災害時にどのような支援を行うかなどを検討するため、「自主防災組織の支援体制（タイムライン）」を作成します。

ステップ6 シミュレーション型図上演習、避難訓練の実施（P9）

2. ワークショップの準備、案内【ステップ0】

- ワークショップを行う災害の種類、ワークショップの範囲
地域の災害リスクに応じて、水害、土砂災害、地震・津波のいずれかのワークショップを行います。
- 運営スタッフを集める
ファシリテーター、講師、運営補助者により、ワークショップを運営します。

【ワークショップの運営者】

市町村は、「避難対策ワークショップ運営者養成講座」を開催し、自主防災組織の役員や職場、団体の代表者などを対象に、手引きに基づくワークショップの運営方法の研修を実施して、ワークショップの運営者の養成を行います。

(1) ファシリテーター（全体およびグループごと）

ファシリテーターは、「促進者」という意味で、ワークショップ全体の進行やグループワークの進行を行います。参加者が持つ様々な意見を引き出すことができるよう、ワークショップを進めたり、あるいは助言したりして、最終的に意見がまとまるよう誘導していきます。

(2) 講師（必要数）

講師は、防災学習（災害の基礎知識等）の際に説明を行います。

(3) 運営補助者（若干名）

運営補助者は、会場運営、受付、アンケートの回収、資料配付、タイムキーパー、記録などワークショップの準備や補助を行います。

- ワークショップの開催案内、準備
各戸訪問やポスター、チラシなどにより参加を呼びかけます。
ワークショップの中で、幅広い意見が出るよう、子供や若者、高齢者など幅広く周知します。
開催にあたり、地域の地図および筆記用具等を準備します（水-参-2等参照※）

※ ()内は手引きのページ数を示している（以降同様）。

災害発生時に、安全に避難するためには、それぞれの地域の詳しい情報を最もよく知っている地域の住民自身が参加して、安全な避難場所や避難経路を検討することが大切です。

3. 避難対策ワークショップの説明【ステップ1】

- ワークショップを始めるにあたり、全体的なスケジュールや内容、意義等について説明します。
（講義資料の例：水-参-8～10、土-参-8～10、地-参-7～9 参照）

ワークショップの運営は、地域住民が主体となって行いますが、資料収集や情報提供、使用する住宅地図やハザードマップの準備、災害の基礎知識の説明などを市町村防災担当課に依頼することも考えられます。

また、必要に応じて、県の「出張！減災教室」や「出張！県政おはなし講座」などを活用して、外部講師に講義等を依頼します。

4. 避難に必要な情報と避難の基本的な考え方の習得【ステップ2】

- ここでは、災害種別（水害、土砂災害、地震・津波）ごとに発生メカニズム、避難場所や避難所、災害発生時に適切な避難行動を取るために必要な情報や避難の基本的な考え方などの知識を習得します。

（災害の基礎知識編、講義資料の例：水-参-11～26、土-参-11～27、地-参-10～21 参照）

- 気象の基礎知識

災害を起こす気象現象（台風、線状降水帯、局地的豪雨など）の概要、雨の強さによる被害の発生状況など、気象の基礎知識を習得します。

- 災害の基礎知識

災害の種類や概要、発生メカニズムなど、災害の知識を習得します。

（例）

- 土砂災害の種類



- 津波発生メカニズム



- 避難に必要な行動

災害の種別に応じた避難行動の注意点や、逃げ遅れた場合の対応などの知識を習得します。

- 避難場所・避難所と地域特性に応じた避難行動

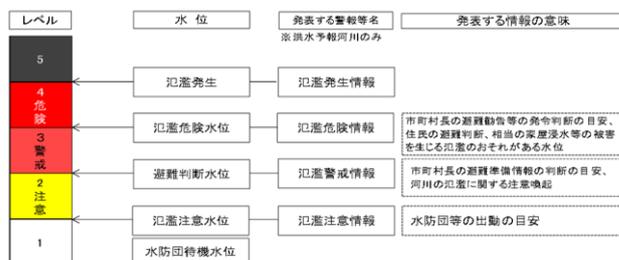
避難場所と避難所についての基礎知識や和歌山県が設定する避難先安全レベル、山間部や平野部など地域特性に応じた避難行動などの知識を習得します。

- 避難の判断をするための防災気象情報と避難情報

災害時に早期に避難するために必要となる情報（大雨注意報、土砂災害警戒情報、津波警報等）、水位の情報（氾濫警戒情報等）、避難に関する情報（避難勧告、避難指示（緊急）等）の概要及び情報を収集する手段（防災行政無線、緊急速報メール、ホームページ等）などの知識を習得します。

（例）

- 水位の情報



- 情報収集の手段（県河川課ホームページ）



- 避難に必要なツール

津波浸水想定域や土砂災害警戒区域などの地域の災害リスクを確認する方法（ハザードマップ、インターネット等）などの知識を習得します。

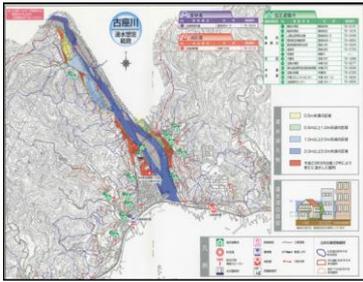
5. 地域における危険性の確認【ステップ3】

● どのように避難するかを検討するため、ハザードマップを確認した上で、地域の災害リスクや災害の起こりやすい箇所などを地図上に記載します。(水-19~21、土-18~20、地-20~22、講義資料の例：水-参-27~30、土-参-28~31、地-参-22~25 参照)

● ハザードマップの確認

ハザードマップにより、地域の災害リスクや避難場所などを把握するとともに、自宅の場所を確認します。

○洪水ハザードマップ



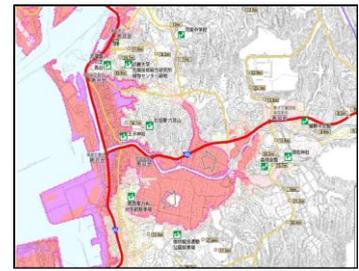
浸水想定区域や避難場所などが確認できます

○土砂災害ハザードマップ



土砂災害警戒区域等の危険箇所や避難場所などが確認できます

○津波ハザードマップ



津波浸水地域や避難場所などが確認できます

● 地図上への記入

グループワークで話し合い、自宅の場所、避難場所、避難経路、避難の支障となるもの、災害時に役に立つものなどを、住宅地図や地形図に記入します。(マイマップのベース地図)

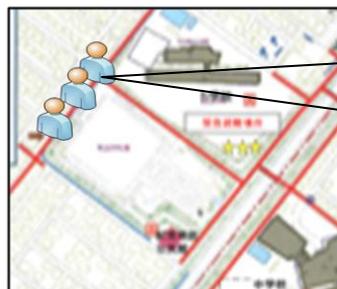
記入するポイント (例)

	水害、土砂災害	地震・津波
避難の支障となるもの	道路（道が狭い、冠水しやすい場所等） 土地や地盤（浸水しやすい場所等）	老朽化した建物、ブロック塀 危険物施設（危険物貯蔵施設等）
災害時に役に立つもの	防災倉庫、備蓄庫 土のうなどの資機材	車いす、リアカー等 消防・消火施設

(作成例)



必要に応じて、まち歩きを行い、避難途中に危険な場所や避難経路の確認などを行います。日常生活の中で通行する経路もありますが、改めてまち歩きを実施することにより、避難時に注意する箇所などの確認を行います。



溢れやすい側溝、水位が上昇すると危険な橋、揺れや強風で倒れやすいもの、ブロック塀、耐震化されていない家屋などの確認を行います

6. 一人ひとりの避難計画の作成【ステップ4】

- 「避難のタイミング表」を作成するとともに、一人ひとりの避難計画として、「マイマップ」の作成や「避難カード」への記載を行います。（水-21～22、土-20～21、地-22～23、講義資料の例：水-参-31～33・37～41、土-参-32～34・38～42、地-参-26～28・32～36 参照）

- 「避難のタイミング表」の作成

グループワークで話し合い、避難するタイミング、避難場所、事前に地域や個人で取り組むことを「避難のタイミング表」として取りまとめます。

○水害、土砂災害の「避難のタイミング表」の例

この表は、避難準備のスケジュールを示しています。縦軸には「避難準備の段階」が示され、横軸には「避難準備の項目」が示されています。色分けされたセルが、各項目の準備期間を示しています。

気象庁の情報（大雨注意報、大雨警報、土砂災害警戒情報等）、避難に関する情報（避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告等）などを基にどのようなタイミングで避難するか、どこに避難するか、今後地域や個人でどのような取組を行うかを検討します。

- 「マイマップ」の作成

グループワークの検討により作成したマイマップのベース地図や避難のタイミング表を参考にして、自宅の場所、避難場所、避難場所までの避難経路、災害時の危険箇所等を記載します。

○地震・津波の「マイマップ表」の例



各自がどのような経路で避難するかなどを、地図に記載してまとめたものです。自宅内の目にとまる場所（冷蔵庫やトイレ等）に貼付しておきましょう。

- 「避難カード」への記載

マイマップに記載した避難場所、避難所等を「避難カード」に記載します。

その他必要事項として、氏名、住所、緊急連絡先など必要事項を記載します。

この避難カードには、氏名、住所、生年月日、性別、家族、緊急連絡先（①、②、③）、避難場所（地震・津波、風水害）が記載されています。

「避難カード」は、災害が起こる前に災害時の避難場所や避難経路について家族で話し合い記入し携帯するためのものです。

災害発生時に家族がばらばらであっても、お互いに、きちんと避難していることを信じ、まずは自分の避難を優先させることが、結果として家族全員の命を守ることに繋がります。

7. 地域の避難計画の作成【ステップ5】

● 地域の避難計画として、「地域の防災マップ」や「避難行動要支援者の避難支援マップ」、「自主防災組織の支援体制（タイムライン）」を作成します。（水-23～40、土-22～38、地-24～37、講義資料の例：水-参-42～49、土-参-43～50、地-参-37～44 参照）

● 「地域の防災マップ」の作成

グループワークで話し合い、災害時の避難経路や避難場所、災害時に活用できる資機材の位置などを示した「地域の防災マップ」を取りまとめます。

○ 「地域の防災マップ」の例



「地域の防災マップ」への記載事項（例）

- ・ 地域の災害リスク（浸水想定区域等）
- ・ 地域の危険性（道路の側溝、ブロック塀等）
- ・ 複合的な災害（浸水と土砂災害等）
- ・ 避難場所、避難所
- ・ 安全な避難経路（広く冠水しにくい道路等）
- ・ 災害時に活用できる資機材（消火器、土のう等）
- ・ 災害時の自主防災組織の活動拠点

● 「避難行動要支援者の避難支援マップ」の作成

グループワークで話し合い、災害時に自力では避難が困難な避難行動要支援者の避難をどのように支援すべきかの検討を行い、避難行動要支援者の支援の体制、避難経路、災害時に活用できる資機材等を「避難行動要支援者の避難支援マップ」として取りまとめます。

特に、地震・津波の避難対策ワークショップを開催する際は、津波到達時間が早いと想定されている地域において、最初から、避難行動要支援者全員をサポートできる人員体制を構築することが難しい場合は、まずできる取組から始め、地域での避難訓練を通じて、避難支援できる方を徐々に増やしたり、支援方法を充実させていくようにします。

● 「自主防災組織の支援体制（タイムライン）」

グループワークで話し合い、自主防災組織が、平常時にどのような取組を行うか、災害時にどの段階でどのような体制で支援を行うかを明確にするため、時系列でまとめ、「自主防災組織の支援体制（タイムライン）」を作成します。

○ 「自主防災組織の支援体制（タイムライン）」の例（水害、土砂災害）

時間軸	避難時期					災害発生後
	平常時	災害発生前	避難準備・高齢者早期避難	避難勧告	避難指示（緊急）	
必要心 防災訓練			大雨洪水 注意報	大雨洪水 警報	土砂災害 警戒情報	記録的短時間 大雨情報
総務課			避難準備水位	避難判断水位	避難危険水位	避難発生
情報課						
連絡調整課						
避難誘導課						
消火課						
救助・救出課						
避難行動要 支援管理課						
避難所運営課						
衛生救護課						
給食・給水課						
清掃課						

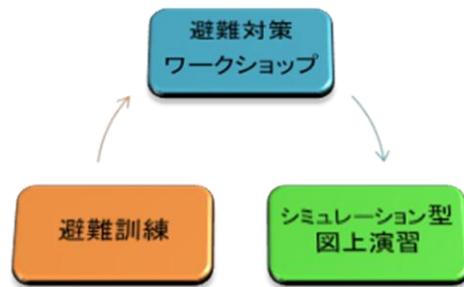
自主防災組織は災害時において、初期消火や救助・救出等とともに、避難所運営、炊き出しなどの役割があります。

また、平常時には、防災訓練、住民の啓発、器具の点検も行い、災害に備えます。

8. シミュレーション型図上演習、避難訓練の実施【ステップ6】

- ワークショップ実施後に、「シミュレーション型図上演習」を行い、「避難訓練」につなげることで、計画、実行、検証のサイクルを実現します。

(水-41~45、土-39~43、地-38~42、講義資料の例：水-参-50~54、土-参-51~55、地-参-45~49 参照)



- 「シミュレーション型図上演習」の実施

ファシリテーターと地区住民（プレイヤー）に分かれて災害種別ごとに実施します。

ファシリテーターは状況付与カードをプレイヤーに付与し、プレイヤーは気象情報や雨量、避難路の状況など様々な状況付与に応じて、災害発生時における判断力を養います。

○ 「状況付与カード」の例（水-参-55~56、土-参-56~57、地-参-50~52 参照）

（長期間の雨の例）

付与No.土砂災害5
1日目 14:00
住所地の市町村に大雨警報（土砂災害・浸水害）が発表された。
雨は止んでいる
和歌山地方気象台

付与No.土砂災害11
1日目 17:00
土砂災害警戒情報が発表された
和歌山地方気象台

（南海トラフ地震の例）

付与No.地震・津波1
1日目 14:45:30
緊急地震速報が発表され、携帯電話が鳴動した。
現在は自宅（職場）にいる
和歌山地方気象台

付与No.地震・津波8
1日目 14:54
ところどころ倒れたブロック塀が散らかっている。
見える範囲では避難経路は通行可能。
現地情報

- 「避難訓練」の実施

ワークショップやシミュレーション型図上演習の実施後に、さらに実践的な避難訓練を行うことで、的確に避難できるようになります。

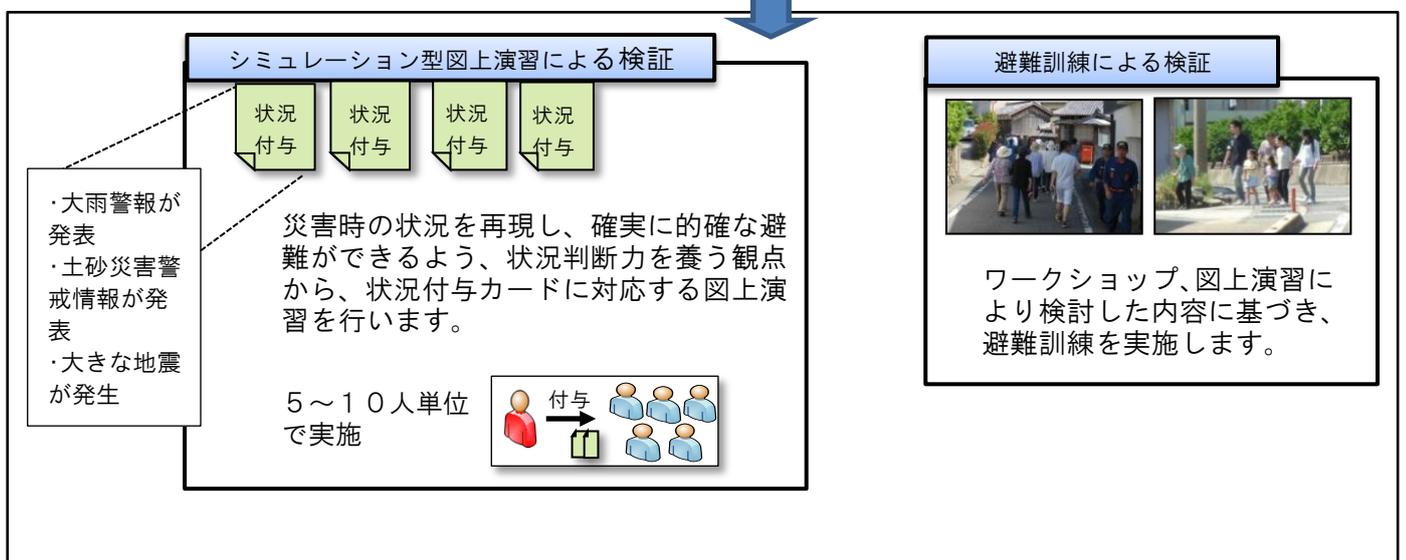
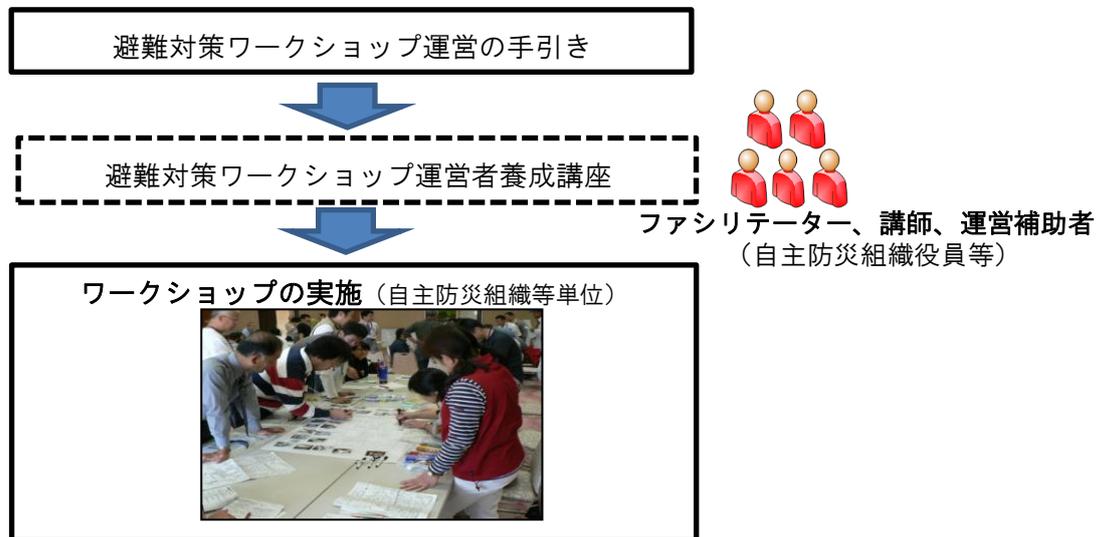
避難訓練は年1回以上実施するようにします。水害、土砂災害の避難訓練は自主防災組織活動の日（6/1）や土砂災害・全国統一防災訓練等の機会を通じて実施し、地震・津波の避難訓練は自主防災組織活動の日（6/1）や世界津波の日（11/5）を中心とした地震・津波避難訓練の集中実施期間等に実施します。

○ 「避難訓練」の実施例（水害、土砂災害）

- 1 地区の住民と調整して訓練の日程等を決める。
- 2 訓練を実施する日程、時間、前提条件などを決めて、周知する。
- 3 開催日の開始時間にサイレン音等により避難訓練の合図を行う。
- 4 自宅から避難場所までの避難を行う。
- 5 市町村や自主防災組織が避難場所の開設を行う。
- 6 自主防災組織等は水防活動、避難行動要支援者の避難支援や安否確認を行う。
- 7 訓練で用いた避難場所で防災気象情報や避難勧告、避難行動に関する防災学習を行う。

9. 避難対策ワークショップの全体像

- この手引きを基に、ワークショップを実施する運営者を養成し（避難対策ワークショップ運営者養成講座）、運営者を中心として、自主防災組織や職場、団体などの単位でワークショップを実施します。
- さらにシミュレーション型図上演習や避難訓練を実施することで、的確な避難につなげます。



(参考)「地区別検討会」の実施概要(水害)

水害の地区別検討会は、串本町古田区自主防災会の協力のもと、避難対策ワークショップを実施しました。

- 実施団体：串本町古田区自主防災会
- 日時：(1回目)平成28年9月18日(日)13:00~16:00
(2回目)平成28年10月2日(日)13:00~16:00
- 場所：串本町役場古座分庁舎

● 避難対策ワークショップの説明

はじめに、古田区自主防災会防災部部長の山口さんから、水害の避難対策ワークショップの全体概要について説明が行われました。

● 災害の基礎知識

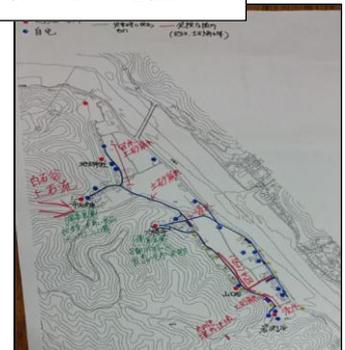
同じく山口さんから、災害を起こす気象現象や水害発生のメカニズム、気象警報や避難情報、避難行動時の留意点、情報の取得手段などについて、説明が行われました。

● 地域における危険性の確認

串本町が作成した洪水ハザードマップで、自宅がどれくらい浸水するのか、避難場所がどこにあるかを各自が確認し、住宅地図に書き込みました。

その後、避難経路上にある災害リスクや災害時に役に立ちそうな資機材を話し合い、住宅地図に書き込みました。冠水しやすい場所、決壊すると危険な池、備蓄倉庫などの意見がありました。

作成した地図



● 一人ひとりの避難計画

注意報や警報、避難勧告などの発表・発令時にそれぞれどのような行動を取るか、どこに避難するか、普段から地区で取り組むことや各自で取り組むことなどを話し合い、避難のタイミング表に書き込みました。

また、マイマップと避難カードの作成を行いました。

避難カードの作成



● 地域の避難計画

ワークショップの最後に、地域の避難計画として、地域の防災マップと避難行動要支援者の避難支援マップの作成を行いました。

防災マップとして、安全な避難経路、避難場所、地域の災害リスク、災害時に活用できる資機材等を地図に記載しました。

また、避難行動要支援者の避難支援の体制や避難経路、災害時の声かけなどを検討し、避難行動要支援者の避難支援マップを作成しました。

各グループから検討結果を発表



(参考)「地区別検討会」の実施概要(土砂災害)

土砂災害の地区別検討会は、九度山町九度山東自主防災会の協力のもと、避難対策ワークショップを実施しました。

○実施団体：九度山町九度山東自主防災会

○日時：(1回目)平成28年9月24日(土)18:00~21:00

(2回目)平成28年10月29日(土)18:00~21:00

○場所：ふるさとセンター

● 避難対策ワークショップの説明

はじめに、九度山東自主防災会の木澤さんから、2回にわたって実施する土砂災害の避難対策ワークショップの全体概要について説明が行われました。

● 災害の基礎知識

続いて、災害を起こす気象現象や土砂災害発生のメカニズム、気象情報や避難情報、避難行動時の留意点、情報の取得手段などについて、九度山町地域防災課の下西主任から説明が行われました。

● 地域における危険性の確認

九度山町が作成した土砂災害ハザードマップで、土砂災害警戒区域等の範囲内に自宅があるか、避難場所がどこにあるかなどを各自が確認し、住宅地図に書き込みました。

また、避難経路上にある災害リスクや災害時に役に立ちそうな資機材を話し合い、住宅地図に書き込みました。冠水しやすい場所、土砂崩れが起きそうな場所などの意見がありました。

● 一人ひとりの避難計画

注意報や警報、避難勧告などの発表・発令時にそれぞれがどのような行動を取るか、どこに避難するか、普段から地区で取り組むことや、各自で取り組むことなどを話し合い、避難のタイミング表に書き込みました。取組として、備蓄品・非常持出品の確認や、隣近所への声かけなどの意見が出ました。

また、マイマップと避難カードの作成を行いました。

● 地域の避難計画

ワークショップの最後に、地域の避難計画として、防災マップと避難行動要支援者の避難支援マップを作成しました。

防災マップとして、安全な避難経路、避難場所、地域の災害リスク、災害時に活用できる資機材等を地図に記載しました。

また、避難行動要支援者の避難支援の体制や避難経路、災害時の声かけなどを検討し、避難行動要支援者の避難支援マップを作成しました。

地図を囲んで検討



各グループから発表



防災マップを作成



(参考)「地区別検討会」の実施概要(地震・津波)

地震・津波の地区別検討会は、美浜町浜ノ瀬自主防災会の協力のもと、避難対策ワークショップを実施しました。

○実施団体：美浜町浜ノ瀬自主防災会

○日時：(1回目)平成28年8月21日(日)13:00~16:00

(2回目)平成28年8月28日(日)13:00~16:00

○場所：美浜町浜ノ瀬住民会館

● 避難対策ワークショップの説明

はじめに、浜ノ瀬自主防災会の村岡会長から、2回にわたって実施する地震・津波の避難対策ワークショップの全体概要について説明が行われました。

● 災害の基礎知識

地震や津波の発生メカニズム、避難行動時の留意点、想定津波高や津波到達予想時間、地震や津波に関する情報やその取得手段などについて、美浜町防災企画課の鈴木主事から説明が行われました。

● 地域における危険性の確認

美浜町が作成した津波ハザードマップで、自宅がどのくらい浸水するか、避難場所がどこにあるかを各自が確認し、住宅地図に書き込みました。

また、避難経路上にある災害リスクや災害時に役に立ちそうな資機材を話し合い、住宅地図に書き込みました。例えば、老朽化した建物、ブロック塀、備蓄倉庫、消火栓などの意見がありました。

● 一人ひとりの避難計画

地震の揺れがおさまるまでの行動や、津波の発生が想定されるため、限られた時間での行動、どこに避難するのか等を話し合い、避難のタイミング表に書き込みました。

その後、避難場所や避難経路の把握、避難行動要支援者の把握、避難訓練の実施、住宅の耐震化や家具等の固定など、普段から地区や各自で取り組むこと等を話し合い記載しました。

また、マイマップと避難カードの作成を行いました。

● 地域の避難計画

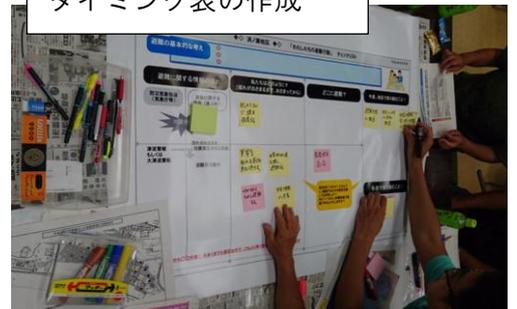
防災マップとして、安全な避難経路、避難場所、地域の災害リスク、災害時に活用できる資機材等を地図に記載しました。

また、避難行動要支援者の避難支援の体制や避難経路、災害時の声かけなどを検討し、避難行動要支援者の避難支援マップを作成しました。「津波到達まで時間が短く、要支援者全員を救助することが難しい」等の感想があり、講師から、「はじめは、一人でも多く助けるにはどうすればよいかとの議論をし、最終的には全員助けることができるような議論に発展させるのが望ましい」とのアドバイスがありました。

地図を囲んで検討



タイミング表の作成



各グループから発表

